

はじめに

本市の中心部に位置する熊本城は、別名「銀杏城（ぎんなんじょう）」とも呼ばれており、緑に囲まれたその勇姿は街並みとも見事に調和し、癒しを求める市民憩いの場となっています。昨年4月には、西南戦争で消失した本丸御殿大広間が復元されその全貌が公開されましたが、新たな魅力の加わった熊本城には、200万人を超える入園者が訪れ、全国のお城の中で昨年度の入場者がトップになるなどその歴史的な魅力に益々関心が高まっています。

この熊本城の豊かな緑は、衛星画像を用いた当所のこれまでの調査から市中心部のヒートアイランド現象の緩和に重要な役割を果たしていることもわかってまいりました。お城の歴史的遺産としての価値もさることながら、環境にもたらす恩恵についても注目されるところです。

一方、温暖化対策をはじめとする地球環境問題への取組みが喫緊の課題となっておりますが、当所におきましても親子環境探検隊や環境教室、親子エコスクール等を開催し、自然体験や科学実験を通して環境を守る大切さを学ぶ場を提供しております。最近では、学校や子ども会などの地域団体からの出前講座の依頼が増えており、環境問題に対する関心の高まりが感じられます。

ところで、本年4月には、発生が危惧されていた新型インフルエンザが遂に海外で確認され、国内でも本格的な流行期を迎えております。これまで強毒性の鳥インフルエンザウイルスの発生を想定して準備を進めておりましたが、今回の新型インフルエンザについても、国による早急なPCR検査試薬等の配布や各種指針等も出される中で、当所でも素早く検査体制を整えることができました。今回発生した新型インフルエンザは幸いにして弱毒型でしたが、今後は強毒型への変異や、東南アジアにおける感染拡大による鳥インフルエンザウイルスとの交雑からの新たな強毒性新型インフルエンザの発生も危惧されます。当所では、このような健康危機事例に迅速かつ的確に対応するために、検査機器の整備とともに人材の育成を進めております。

ここに平成20年度の所報を発刊いたしました。ご高覧いただき、ご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年11月

熊本市環境総合研究所長

津留 靖尚